

会 議 報 告 書						
会議名	令和４年度第３回草津市あんしんいきいきプラン委員会					
開催日時	令和５年２月９日（木）１４：００～１５：３０					
開催場所	南部健康福祉事務所（草津保健所） ３階大会議室					
委員	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
	委員長	佐藤 卓利	出席	委 員	川那部 光子	出席
	委 員	鈴木 孝世	出席	委 員	寺嶋 和男	出席
	委 員	山本 博一	出席	委 員	谷 勝久	出席
	委 員	中西 真由巳	出席	委 員	磯山 信夫	出席
	委 員	宮城 徳幸	出席	委 員	田付 逸朗	出席
	委 員	松永 将孝	出席	委 員	山口 芳栄	出席
	副委員長	小川 義三	出席	委 員	宮本 英彦	出席
	委 員	新村 真喜子	出席	委 員	今居 功	出席
	委 員	林 明礼	欠席	委 員	糸井 敏明	欠席
	委 員	中村 秀樹	出席	委 員	吉岡 孝治	出席
事務局	健康福祉部：永池部長、山本理事、安藤副部長					
	長寿いきがい課：松本課長、力石課長補佐、青木課長補佐、河原田副係長、 中西主査					
	介護保険課：高阪課長、木村参事、相井参事、島川課長補佐					
	地域保健課：松尾課長、上野主査、吉田保健師、山下保健師					
その他	傍聴者 なし					

１．開会および挨拶

＜草津市附属機関運営規則に基づき、本委員会が成立していることを報告＞

＜健康福祉部長から挨拶＞

２．協議

（１）生活支援体制整備事業について

○事務局

【資料１に基づき説明】

○委員長

草津市あんしんいきいきプラン委員会は生活支援体制整備事業における第1層協議体として位置づけている。本日の審議は、主に生活支援体制整備事業の第1層協議体としての課題と今後のあり方となる。委員の皆さまから率直な意見をお願いしたい。

○委員

7ページの令和4年度取組方針のねらい・方向性として、「第2層協議体では解決できない地域横断的または市全域の課題として検討が必要な事項については、第1層協議体において協議する」とあるが、この事案の内容および協議しなければならないことは予算的なことなのか、教えていただきたい。また、令和4年度方針として「地域のインフォーマルサービスを周知し、新たな利用者が増え、現利用中の高齢者が辞めていかない体制の検討を行う」とあるが、地域サロンが一番身近に感じられる。地域サロンでは、高齢者自身の自己表現や楽器演奏、理学療法士や地域包括支援センターによる講演などを行っている。地域で幅広く連携していくためには、地域サロンの内容の充実が大切なことから、さらなる援助をお願いしたい。

○事務局

1点目の第2層協議体から上がってきた課題を第1層協議体で検討することについては、第2層協議体で課題を抽出し、具体的に第1層協議体で議論する段階にまで至っていないが、第2層協議体において、それぞれの学区における課題について取組を進めているのが現状である。

2点目については、フォーマルサービスとインフォーマルサービスが共に活動することで顔の見える関係性を築いていくために、地域サロンの中で専門職からアドバイスをもらったり、専門職ならではの知識を学んでもらうようなことは今後もしていくた

い。その一つとして、今年度は、地域サロン交流会において、ケアマネジャーに参加していただいた。

○委員長

次年度に向かって、第1層も第2層も具体的に動き出すために何が必要かという観点から議論するのがいいと思っている。第2層協議体に参加されている委員がいれば、今年度の活動状況等を紹介してもらえると、議論の糸口になるのでお願いしたい。

○委員

10ページにあるように、地域のボランティア団体の担い手がなく、高齢化で苦しい状況がある。

11ページの駐車場を通した高齢者の見守りネットワークの構築について、いろいろ話し合いはしたが、難しい問題がある。その一つとして、市営住宅の駐車場について市の住宅課で話を聞いたが、勝手に停めてもいいというわけにもいかない状況がある。民間事業所や企業に一時駐車させてもらうことには限度があるので、地域の自治会館やまちづくりセンターの駐車場、または地域で空いている土地を借りることなどが考えられるが、第一歩は、町内会の理事会で説明をして理解してもらうことではないかと話している。また、利用者の中には、訪問介護サービス事業所の車を家の前に停めないでほしいという方も多い。最終的には地域の理解がなければいけない。

○委員

今、第2層協議体の学区で、困ったことや駐車場の確保の方法など、具体的なことを聞くアンケート調査を行っている。利用者の中には、私たちが訪問する際に、家の前に車を停めないようにとか、事業所の名前が入っている車で来ないでほしいなどとい

った要望がある。緊急時には家の前に車を停めさせてほしいことは伝えているが、家から少し離れた会館等に停めさせてもらって訪問している状況である。

○委員

駐車場を通した高齢者の見守りネットワークの構築については、本委員会で提案し、賛同いただき、草津市社会福祉協議会と協議をしているが、実際に動いたことは介護事業者にとっては励みとなり、モチベーションが湧いた。次の段階としては、地域住民の所へ何回も足を運んで説明し、意識を変えていく必要があるが、それができるのは、第1層協議体の私たちと取り巻く皆さまの協力が必要だと思う。意識が変わらない限り世の中は明るくならない。事業所としても力を尽くしていきたい。

○事務局

第2層協議体の現状は、まずはそれぞれの学区の中で解決できることを考えていこうという取組を進めている段階である。たとえば、地域の中の高齢者の見守りネットワークづくりにあたっては、フォーマルサービスとインフォーマルサービス、地域での支え合いと専門職による支援がうまくつながり合って互いの活動を知り合い、さらに地域での見守りを続けていこうということで、学区単位で地域サロン交流会を進めている所や、学区の地域サロンの代表者と地域の事業者が互いの活動を知り合う活動を進めている所もある。

○委員

第1層協議体は市域、第2層協議体は小学校区で、第2層協議体は生活支援コーディネーターの専門職が主に活動していると捉えたらいいのか。

○事務局

第2層協議体の生活支援コーディネーターは、草津市社会福祉協議会へ委託しており、14小学校区に配置されている。第2層協議体は「学区の医療福祉を考える会議」として設置し、専門職は草津市社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域の事業所や医療関係者という所もあるが、地域の中からはまちづくり協議会や地域の方々に参画いただいております、地域の高齢者を取り巻く様々な団体が地域の高齢者の課題の解決に向けて話し合っている。

○委員

行政として多岐にわたってきめ細やかに研修や支援をしていただいているが、連携がとれていないと思うことがある。様々な窓口があるが、共有できるようにしないと、せっかくのサービスがバラバラになってしまう。

○委員長

極めて具体的な課題を提起していただいた。「学区の医療福祉を考える会議」があることは御存知か。

○委員

知らない。

○委員長

そこが大きな課題だと思う。本来のねらいからすれば、第2層協議体でそのような問題点が共有されて第1層協議体へ上がってくるようになっているわけだが、そうならないことが今の話で明らかになった。第1層協議体でも来年度、議論して方向性を出

していきたい。

○事務局

生活支援コーディネーターは地域の中の支え合いの仕組みを作っていくわけだが、別の視点から言えば、個別の高齢者に対して、サービス提供者だけではなく、地域の中での見守りも含めてネットワークを作りながら支えていく地域ケア個別会議が地域包括支援センターにある。それを十分に利用できるよう、いただいた御意見は地域包括支援センターと共有させてもらう。

○委員長

当事者には地域包括支援センターが関わって、他の事業所とのコーディネート役割をしている。まずは第2層協議体関係者が互いに知り合うことができないと、個々のケースの解決に結びつくことはあっても、地域全体の共有課題になっていない状況がある。来年度の課題として具体的に議題に挙げ、皆さまから意見を伺いたいと思う。

○委員

12ページの取組実績に、笠縫学区で「あったらいいな」や介護事業所が地域と一緒にできることについて検討したと記載してあるが、介護事業所には様々な基準がある中でギリギリの人数で運営している。地域と一緒に協働していきたいという思いはあるが、そこに人員を割くのは難しい。活動型デイサービスの利用者の中には元気そうな事業対象者の方たちが長年通っている。そのような方々にデイサービスで食事の準備などを手伝ってもらってはどうかと、事業所としてそのような貢献ができないかと思って提案したが、今のところ誰も来ない。

3. 報告

(1) 介護人材確保事業について

○事務局

【資料2に基づき説明】

○副委員長

報告内容について、一つ一つの事業はバラバラであるようだが、実は関連性が非常に強い。たとえば、管理者向けの研修の企画では、このような研修を受ける機会がほとんどなく、研修の講師の言葉を借りると、介護事業所は人手が足りないと言われているが、風呂の浴槽に栓をしないまま水を溜めているようなものである。施設あるいは事業所のやりがいや、運営理念、根幹になるものがきちんと定まっていないので、良い人材が次々と辞めていく。介護事業所を退職した人の実態調査によると、退職理由として、人間関係や施設の運営理念に共有できないといった理由が上位に挙げられている。介護の仕事のイメージは、いわゆる、きつい、汚い、危険の3K、それに加えて給料が安いことがつきまとうが、それが一番の理由ではなく、働きがいややりがいを見失っていることが大きな退職理由である。施設の管理者が、しっかりそのことを学んでいかなければいけないということが、今回の取組でよりリアルに分かってきた。また、学生とのディスカッションや講義で感じたことは、3Kのイメージだけが先行していて、実際はそうではないところが伝わっていない。ここ数年、介護の魅力発信が叫ばれているが、施設はきちんとマネジメントを研修していける体制づくり、地域社会、行政も含めて介護の魅力を正しく伝えていくことを、両輪で回していかなければいけないと、この1年間、人材定着や国の事業に携わる中で感じた。

○委員

「働きがいのある職場をつくる」という研修に副施設長として参加したが、2名で参加するところが良かった。しかも、管理者または施設長と2番手のペアということなので、研修で聞いたことや考えたことを持ち帰って、スピーディに取り組むことができる。魅力的な事業所、働きがいのある事業所を作るために、近隣の保育園・幼稚園や小学校と年に数回交流会を行っているが、4月から採用する職員の中に、保育園に通っていた時に当事業所のデイサービスの交流会に参加した人がおり、高校卒業後、福祉の仕事をしたと考えた時に当事業所で働きたいと言ってくれたことがうれしかった。種をまくといったところから介護や福祉に興味を持ってもらえることも必要ではないかと感じた。

○委員長

介護福祉人材確保を事業者任せにするのではなく、地域や行政も加わってやっていこうということで、湖南4市、とりわけ草津市では一生懸命頑張っている状況の一端を示していただいた。

○委員

市内には隣保館が4か所あり、福祉関係の事業も行っているので、介護福祉人材育成の勉強をするための案内を出すことも一つの方法だと思う。

○委員長

隣保館の事業として、地域の人が介護について勉強する機会を提供することもこれからの課題である。私が担当している大学講義について、学生の感想文を読むと、介護のことをあまり知らない人が多く、悪いイメージが先行しているというのは、言われ

た通りである。ただ、自分の祖父母等の介護を経験しているという人は意外と存在しており、介護に関わる親が苦勞をしたという感想文もみられた。身近な問題として介護のことを考える機会はあるので、事業者や行政が積極的に介護について説明して理解してもらう機会を持つていくことが大事である。

(2) 草津あんしんいきいきプラン第9期計画策定に向けて

○事務局

【資料3に基づき説明】

○委員

地域包括支援センターがあることは知っているが、介護施設のことを全く知らないの
で、見学や体験をさせてもらうことができないか。そこから知恵を絞っていきたいと
思っている。

○委員長

これは事業者の協力で具体的に検討できると思う。介護の当事者にならない限り、施
設やサービスを利用したり知る機会は少ないが、事前に正確な知識として持つておく
ことは非常に大事である。何よりも委員の皆さまが率先して草津市の介護事業につい
て学んでいただく機会を設けていただけるよう、草津市にもコーディネートをお願い
したい。

○委員

「高齢者をささえるしくみ」という小冊子を長寿いきがい課で作成している。非常に

有用な冊子なので、全戸配布を検討してほしい。

○事務局

「高齢者をささえるしくみ」には、介護保険制度の概要や介護保険制度以外の草津市の福祉サービスの案内等を掲載している。特に介護サービスを必要とされている方を中心に役立てていただいているが、介護保険課や長寿いきがい課の窓口に来られる方をはじめ、関係各所の皆さまに配布しており、限られた部数の中で配布することと併せ、市のホームページにも掲載している。若い世代の方も含めて御案内できるよう、その方に適した方法でご覧いただけるよう工夫していきたい。

○副委員長

今後の取組の流れとして、災害時や被災時、介護事業者も事業が継続できる計画（ＢＣＰ）を令和６年度末までに作らないといけない。ただ、事業所だけがＢＣＰを作っても意味がない。行政の縦割りの中では危機管理と福祉との課題があるかもしれないが、少なくとも、罹災された方や避難された方を支える仕組みを一緒に考えていくことも、生活支援のあり方として視点に入れていくべきだと思う。かつ、これは地域の人たちの協力も必要不可欠である。各自治体では一時避難所を設置しているが、一時避難所から福祉避難所に入ってくる被災者を、どのような流れで計画的に対応するのか。個別計画を立てながら進めるという方向性にはなっているが、突然起こる地震に対して対応できるのか。そのために避難訓練があるわけだが、生活支援体制整備事業の一環として、基本施策の中に、助け合い・支え合い活動の充実とあるように、それも一つの助け合い・支え合いになるのではないかなと思う。この委員会は地域や民生委員の代表の方が来られているので、そういう方向性で、危機管理と福祉を横串でしっかりつなぎながら連携が図れると、良いものが作れるのではないかなと思う。ぜひ

検討していただきたい。

○委員長

災害時の生活支援体制についてどのようにするのかという問題提起があったことを、
庁内の会議で伝えていただきたい。

4. 閉会